

GTK+/GLib

のファイル名

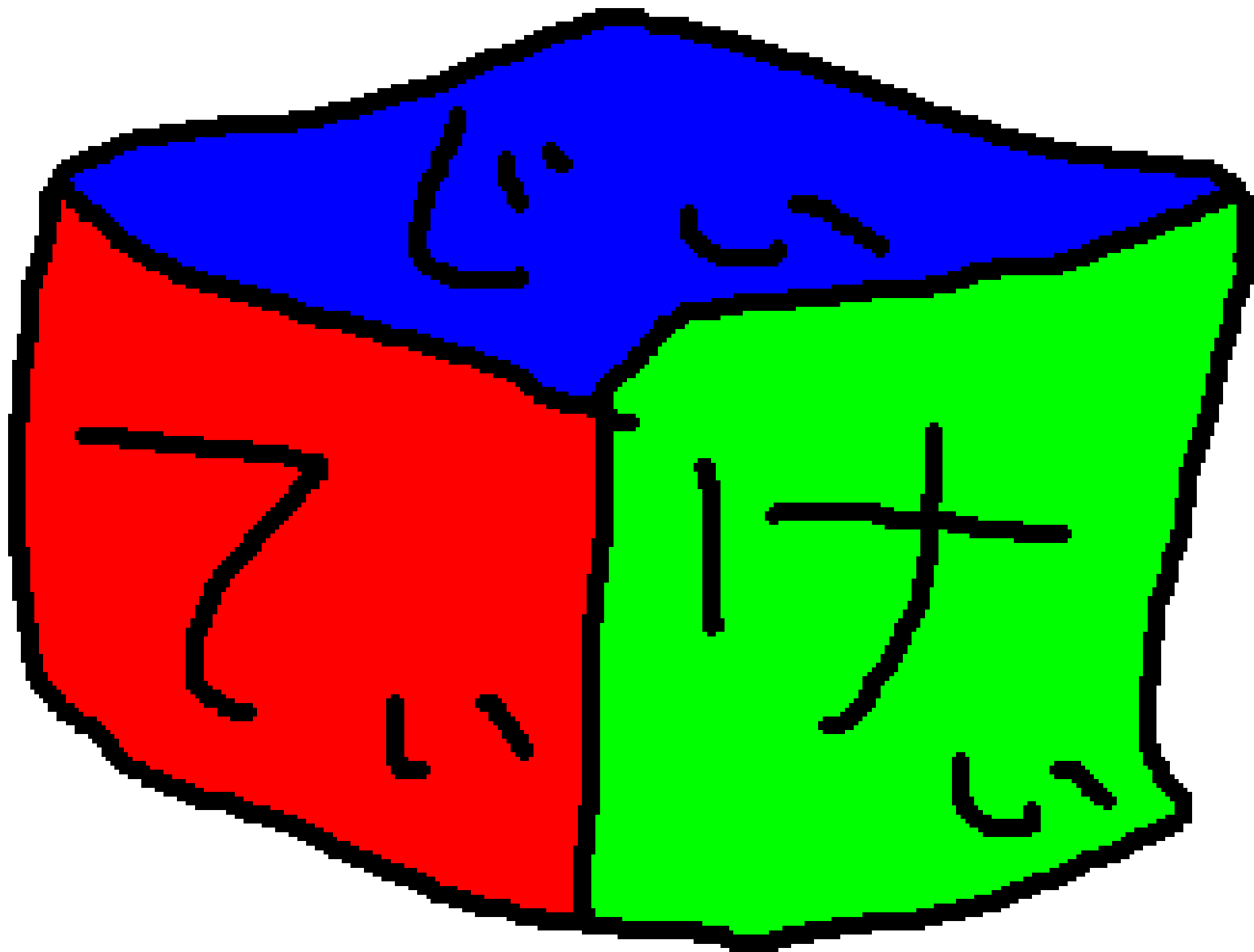
エンコーデ<sup>ィ</sup>イ

ンク<sup>ィ</sup>

山  
石

木  
本

一  
樹



**GTK+**

GUI

ツツーラルキット

**Glib**

GTK+の

下で働くラ

イブラリ

2.8.17が

最新版



1.0系と  
2.0系に  
分かれる

1.0 → 2.0

このとき、しい  
くつつかの**特長**  
が**アピール**さ  
れた

Pangoによる  
多言語  
テキスト出力

新テーマエンジン

ATKKによる  
アクセシビリティ  
サポートの向上

**UTF-8**

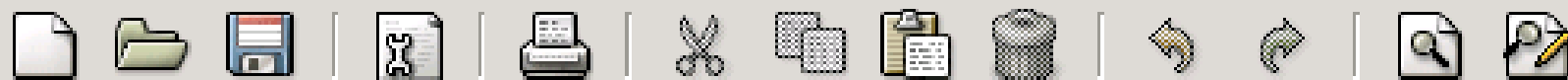
例えは

こんな

感じ



ファイル(F) 編集(E) 検索(S) オプション(O) ウィンドウ(W) ヘルプ(H)



iwm\_utf.txt X

Kazuki IWAMOTO ▾

岩本一樹 ▾

岩本一樹 ▾

이와모토카수키 ▾

I w a m o t o k a s u k i ▾

И в а м о т о к а д з г к и ▾

ᄒᄒᄒᄒ ᄒᄒ ᄒᄒᄒᄒᄒᄒ ▾

K I W T P T P ▾

इव म ोत ोक ाज़ ु क ि ▾

すべし

UTF-8に?

不  
冂

例えは...  
■ ■ ■

GtkFileChooser

開くファイル  
を選択したり  
入力する

GUI

- ホーム
- デスクトップ
- ファイルシステム

ホーム test

名前	最終変更日
abc	2006年05月06日
xyz	2006年05月06日
岩本一樹	2006年05月06日

+ 追加(A)

削除(R)

All Files

X キャンセル(C)

開く(O)

ファイル名を取得するAPI

`gtk_file_chooser_get_filename`



ファイル名を設定するAPI

`gtk_file_chooser_set_filename`

これらのAPIの文字列  
≠UTF-8

GTK+/GLib以外のAPI  
例えば...

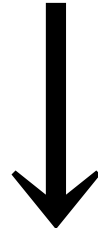
fopen

open

stat

readdir

gtk\_file\_chooser\_get\_filename  
gtk\_file\_chooser\_set\_filename



これらのAPIで使える文字列

この文字列の  
文字符号化方式を  
file name encoding  
と呼ぶ

file name encoding  
の实体は？

# GLib-2.4以降 環境変数

**G\_FILENAME\_ENCODING**



**G\_FILENAME\_ENCODING=ISO-8859-1**

GLib-2.6以降ならば  
複数指定可能

**G\_FILENAME\_ENCODING=EUC-JP,CP932**

GLib-2.4で  
複数指定すると  
先頭のみ有効

@localeという  
特殊な設定も

**G\_FILENAME\_ENCODING=@locale,CP932**

ローケール  
の文字符  
号化方式

その実

体は？



優先順位が高い順に...

nl\_langinfoの返値

setlocaleの返値

環境変数LC\_ALL

環境変数LC\_CTYPE

環境変数LANG

いずれか1つ

環境変数

G\_FILENAME\_E

NCODINGが未定

義

or GLib-2.2以前

# 環境変数

G\_BROKEN\_FILENAMES

`g_get_charset`の返回值

即ち、口  
ケールの文  
字符号化方  
式

環境変数G\_FILENAME\_ENCODING未定義  
環境変数G\_BROKEN\_FILENAMES未定義



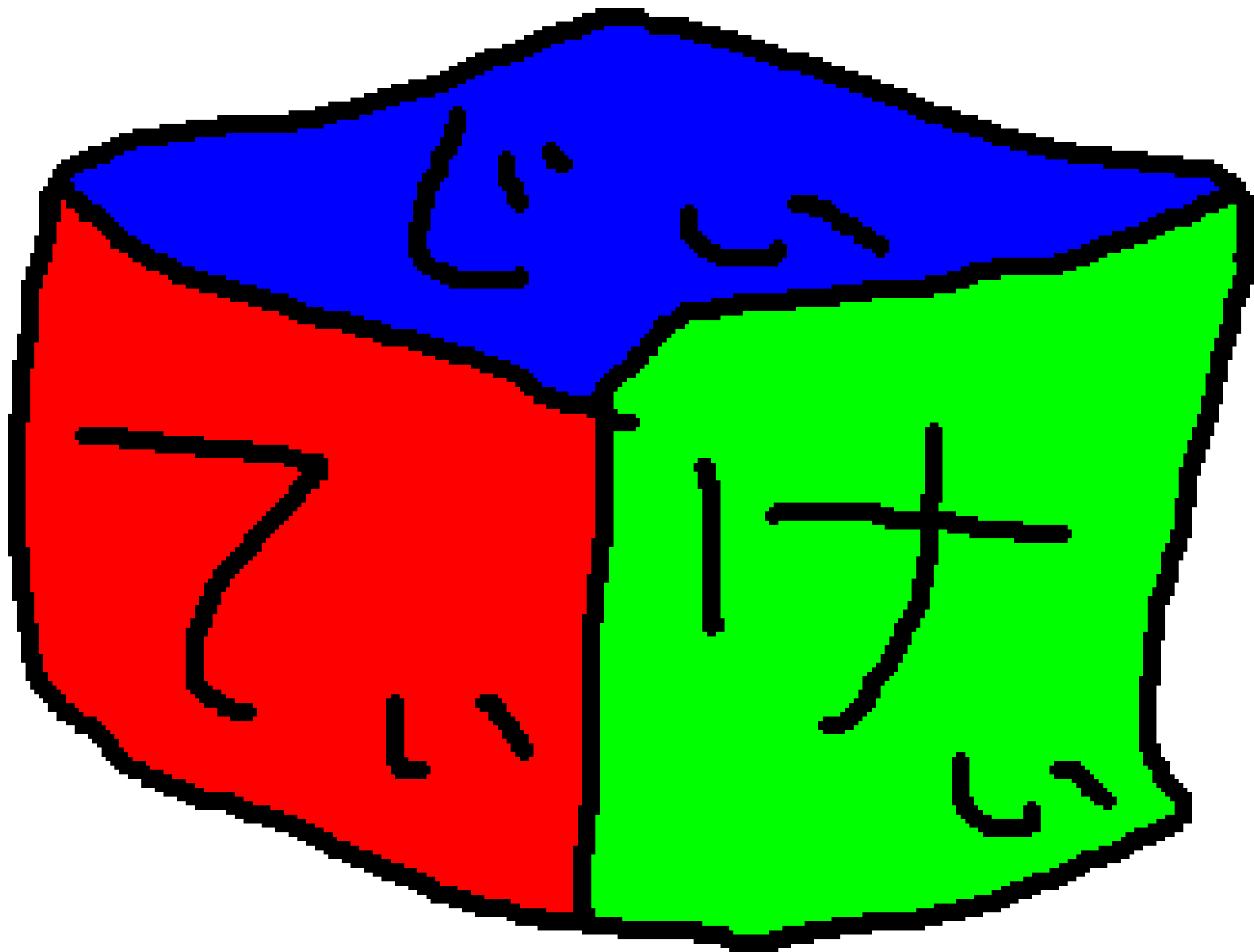
**UTF-8**

た たがし

Microsoft

Windows

では別



file name encodingの変換

file name ncoding  
からUTF-8に変換する  
g\_filename\_to\_utf8

file name nencoding  
をUTF-8に変換する

g\_filename\_from\_utf8

# 2.6以降

g\_filename\_display\_name

g\_filename\_display\_basename



g\_filename\_to\_utf8

g\_filename\_display\_name

の違い

# 2.6以降

g\_get\_filename\_charsets

`g_get_filename_charsets`



環境変数

`G_FILENAME_ENCODING`

# 環境変数

G\_FILENAME\_ENCODING  
で複数指定



複数の文字符号化方式を返す

g\_filename\_to\_utf8

最初だけ

g\_filename\_display\_name

順番に試みる

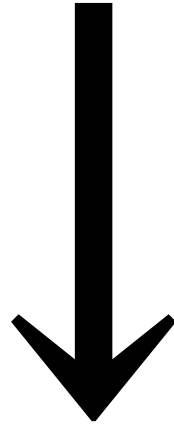
順番に試みる  
= 変換に失敗したら  
次の文字符号化方  
式を試す

g\_filename\_display\_name  
の方が変換できる  
可能性が高い



g\_filename\_display\_name  
では元の文字符号  
化方式が不明

file name encoding



UTF-8

一方通行

g\_filename\_display\_name

表示のための変換

では

g\_filename\_to\_utf8

と

g\_filename\_from\_utf8

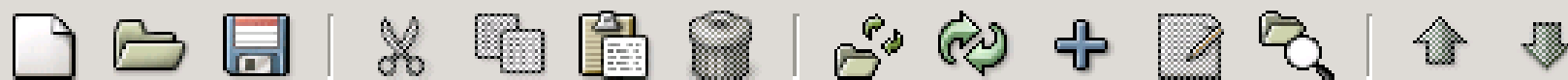
の使い所は？

独自にフア  
イル名を入  
力する場合

HDDオーデイオプ  
レイヤーのデータ  
管理ソフトの場合

曲(ファイル)の  
リストを作ります

ファイル(F) タグ(T) オプション(O) ウィンドウ(W) ヘルプ(H)



new0000.idb X

ファイル	タイトル	アーティスト	アルバム	西暦	コメント
/home/iwm/mp3/gtk.mp3	GTK+/GLibのファイル	岩本一樹	Linux Conference 2006	2006	



リスト項目を  
編集する  
ダイアログ

ファイル(F) タグ(T) オプション(O) ウィンドウ(W) ヘルプ(H)



new0000.idb X

ファイル編集

ファイル(F) /home/iwm/mp3/gtk.mp3 参照(B)...

タイトル(T) GTK+/GLibのファイル ▼

アーティスト(A) 岩本一樹 ▼

アルバム(L) Linux Conference 2006 ▼

コメント(C) ▼

西暦(Y) 2006  トラック(R) 0 ▼

ジャンル(G) 特撮 ▼ 文字符号化方式(E) SHIFT\_JIS ▼

キャンセル(C) OK(O)

このダイアログの  
ファイル名を  
入力する部分

ファイル(F) タグ(T) オプション(O) ウィンドウ(W) ヘルプ(H)



new0000.idb X

ファイル編集

ファイル(F) /home/iwm/mp3/gtk.mp3 参照(B)...

タイトル(T) GTK+/GLibのファイル

アーティスト(A) 岩本一樹

アルバム(L) Linux Conference 2006

コメント(C)

西暦(Y) 2006  トラック(R) 0

ジャンル(G) 特撮 文字符号化方式(E) SHIFT\_JIS

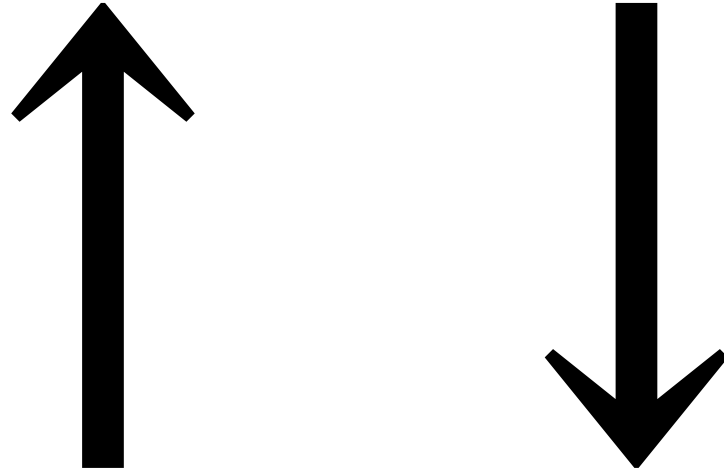
キャンセル(C) OK(O)

1.file name encodingをUTF-8にする

## 2. エントリーウィジェットで編集

3.UTF-8をfile name encodingにする

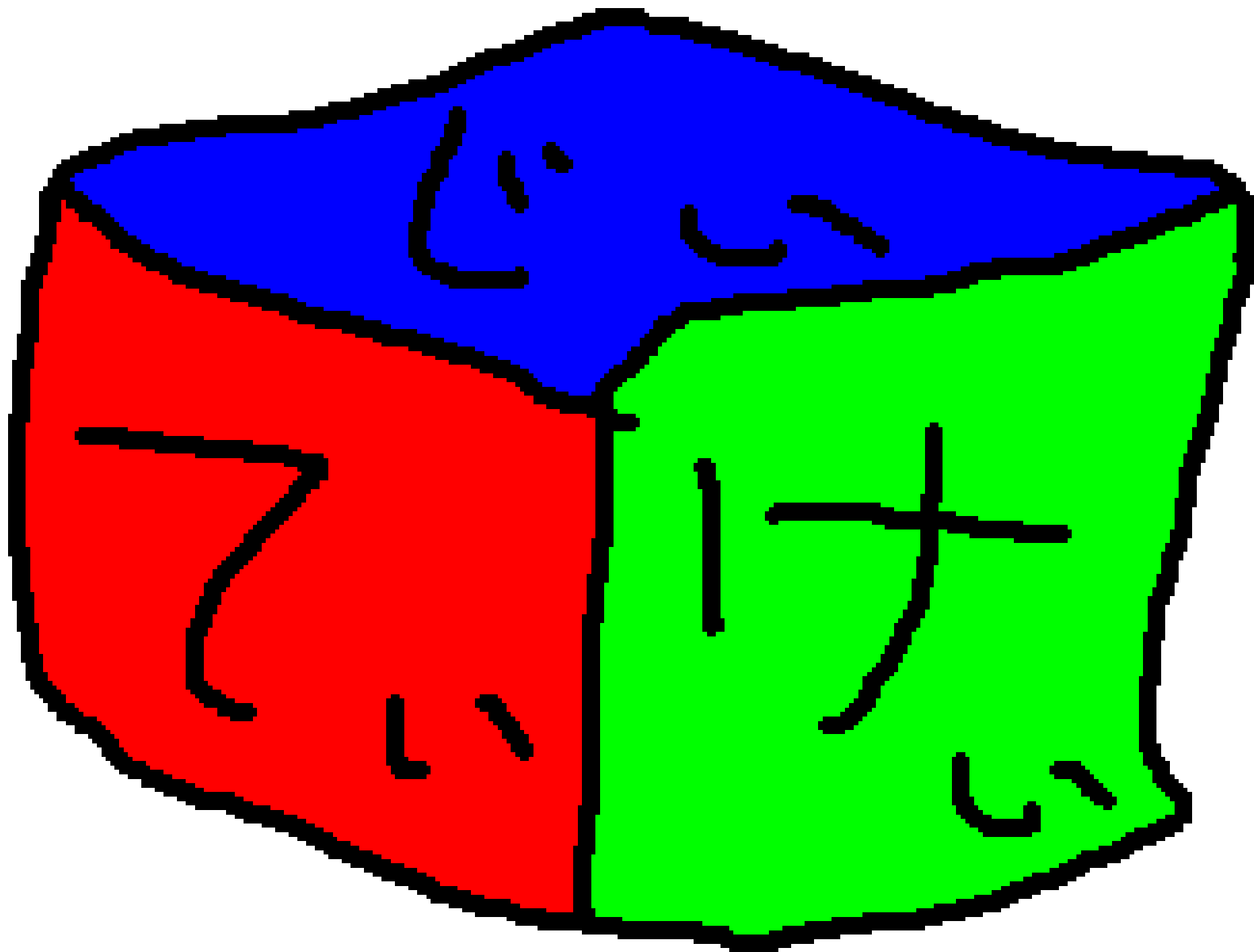
g\_filename\_to\_utf8



g\_filename\_from\_utf8

可逆?





変換の実装は

libiconv

# 例えば

CP932 → UTF-8 → CP932

徹底

CP932

ED 61

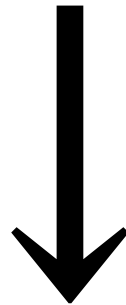
UTF-8

E5 83 98

CP 932

FA 7D

ED 61



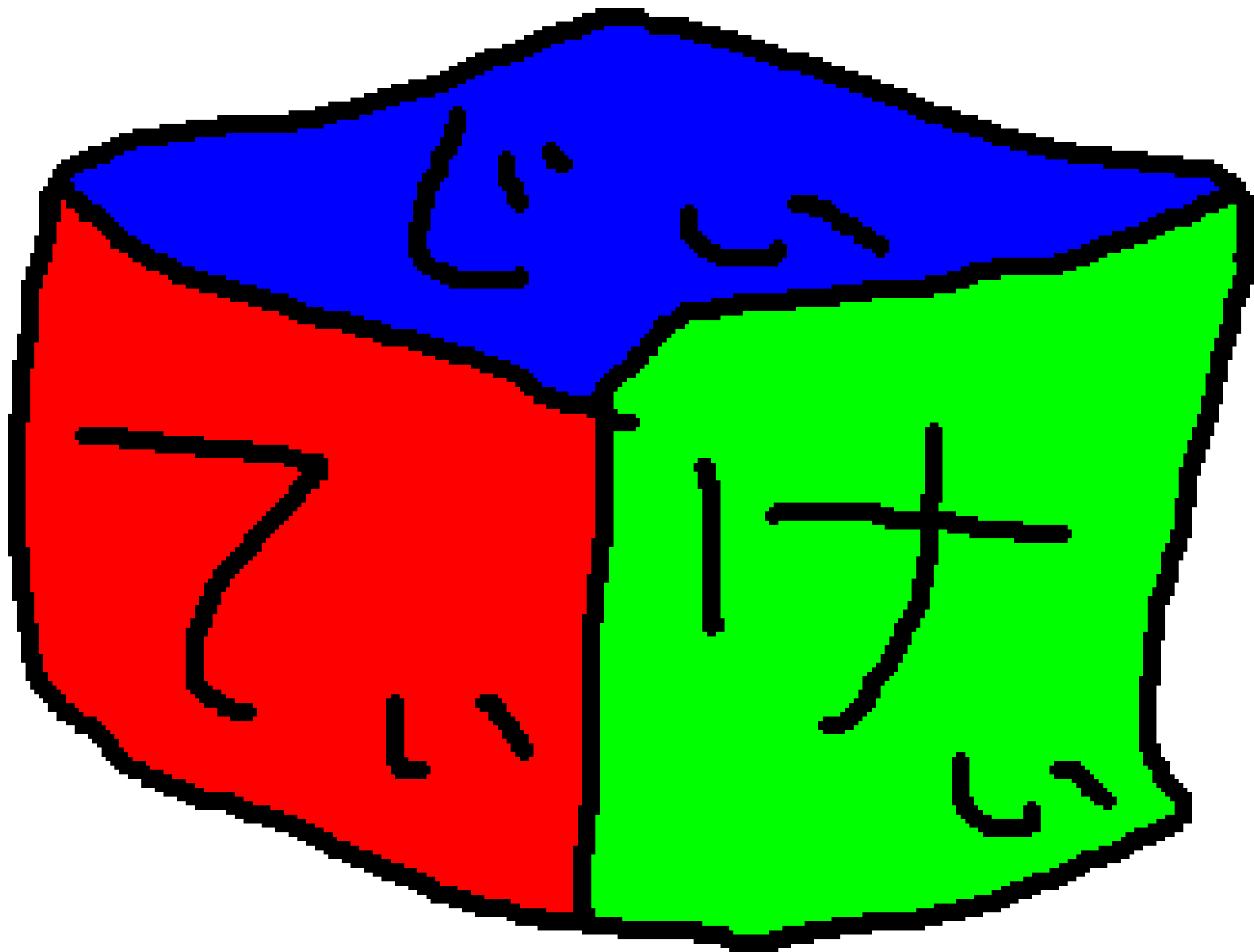
FA 7D



CP932は  
歴史的経緯により  
同じ文字が重複し  
て登録されている

NECのPC-9801と  
IBMのDOS/Vの  
それぞれの文字を  
統合した

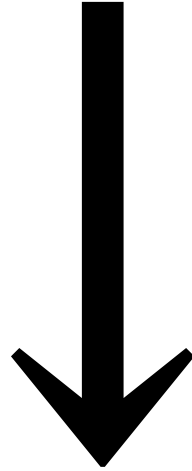
変換で“元  
に戻るとはよ  
限らない



UTF-8と  
file name encoding  
が混在

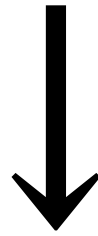
混在 = 面倒

gtk\_file\_chooser\_get\_filename  
g\_dir\_read\_name



取得

取得



即UTF-8に変換



**&file name encoding破棄**

fopen

open

stat

readdir

を呼び出す時

必要に応じて  
その場でUTF-8から  
file name encoding  
へ変換

不要になったら  
file name encoding  
は即破棄

文字列は

すべて

UTF-8

で統一

統一 = 樂

しかし

UTF-8に変

換できない

可能性



環境変数

G\_FILENAME\_ENCODING  
や

G\_BROKEN\_FILENAME  
が正しくない

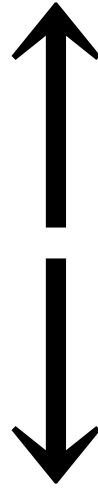
libiconvが  
file name encoding  
と  
UTF-8  
の変換に未対応

対応する

文字が

ない

変換できない



不正なファイル名

?

不  
冂

UTF-8に変換  
できなくとも  
ファイル名とし  
て使える

ゆえに

file name encoding

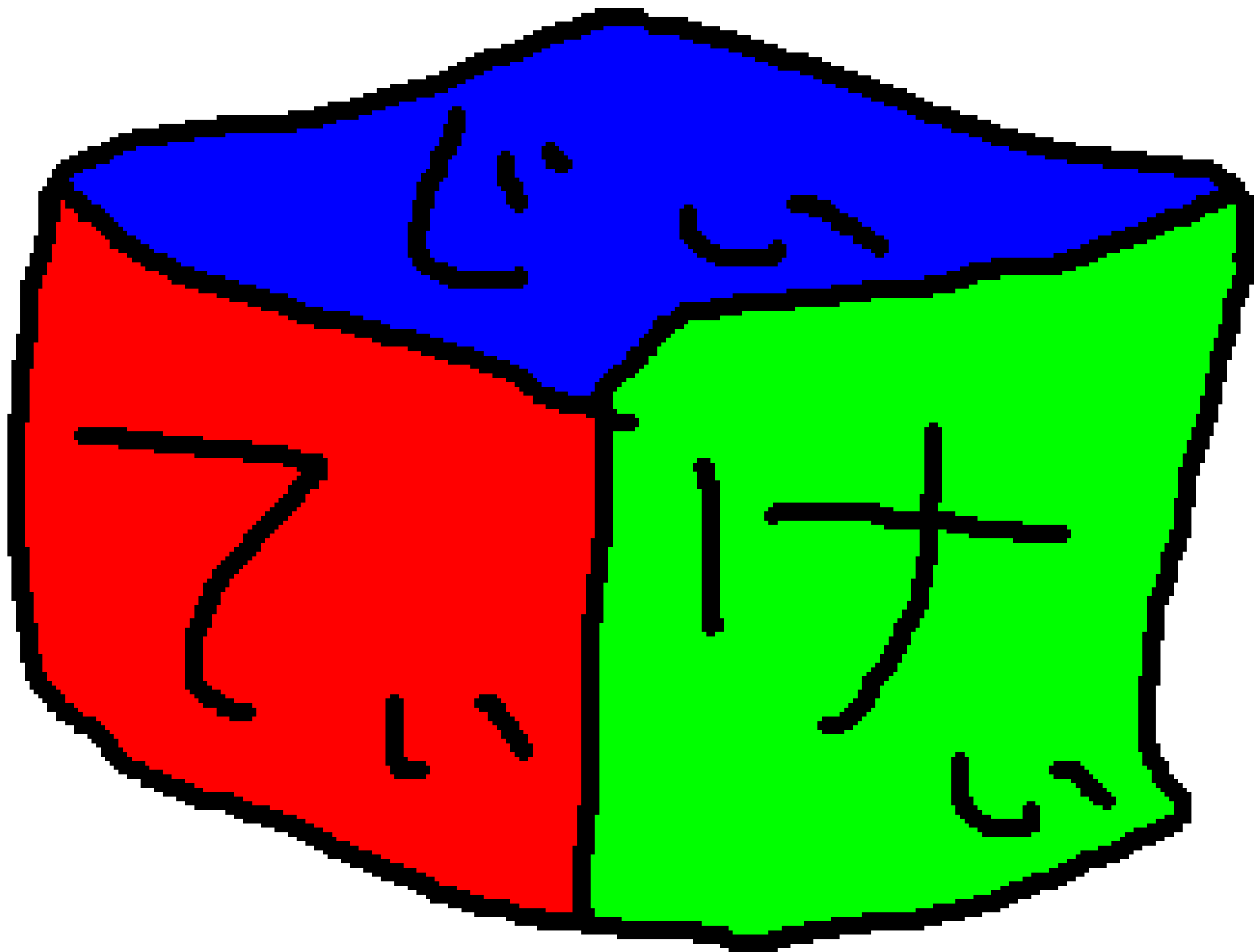
のまま保持

表示する時









必要に応じて  
その場で


file name encoding  
からUTF-8へ変換




ファイル(F) 編集(E) 検索(S) オプション(O) ウィンドウ(W) ヘルプ(H)

-  新規(N) Ctrl+N
-  開く (O)... Ctrl+O
-  閉じる (C) Ctrl+W
-  保存(S) Ctrl+S
-  別名で保存(A)...
-  元に戻す (R)... Ctrl+R





---

-  印刷(P)... Ctrl+P


---

-  プロパティ (P)... Alt+Return

---

-  C:\Documents and Settings\jwm\デスクトップ\2.txt
-  C:\Documents and Settings\jwm\デスクトップ\0.txt
-  C:\Documents and Settings\jwm\デスクトップ\3.txt
-  C:\Documents and Settings\jwm\デスクトップ\1.txt

---

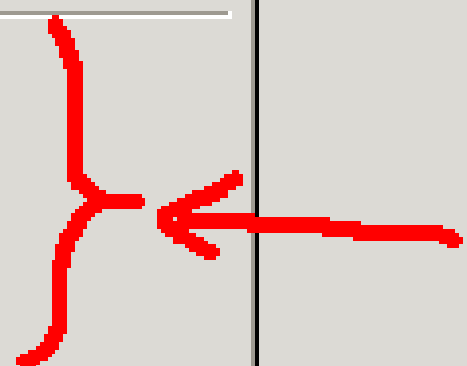
-  終了(Q) Ctrl+Q



# ファイルの履歴

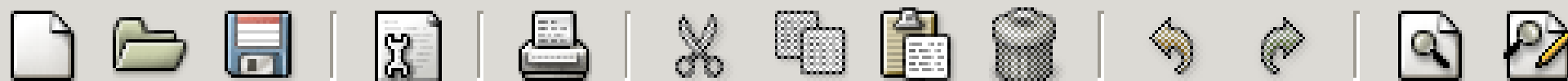
ファイル(F) 編集(E) 検索(S) オプション(O) ウィンドウ(W) ヘルプ(H)

- 新規(N) Ctrl+N
- 開く(O)... Ctrl+O
- 閉じる(C) Ctrl+W
- 保存(S) Ctrl+S
- 別名で保存(A)...
- 元に戻す(R)... Ctrl+R
- 印刷(P)... Ctrl+P
- プロパティ(P)... Alt+Return
- C:\Documents and Settings\jwm\デスクトップ\2.txt
- C:\Documents and Settings\jwm\デスクトップ\0.txt
- C:\Documents and Settings\jwm\デスクトップ\3.txt
- C:\Documents and Settings\jwm\デスクトップ\1.txt
- 終了(Q) Ctrl+Q



# 検索の履歴

ファイル(F) 編集(E) 検索(S) オプション(O) ウィンドウ(W) ヘルプ(H)



new0000 X

**検索** X

検索文字列

オプション

大文字

- Linux Conference 2006
- GTK+
- 岩本一樹

これらは  
再起動しても  
保存される



通常はファイルに  
保存

ホームディレクトリの

.tmaid

とか

.tmaidとかは  
テキスト形式

文字符号化方式は？

ファイルの履歴

=file name encoding

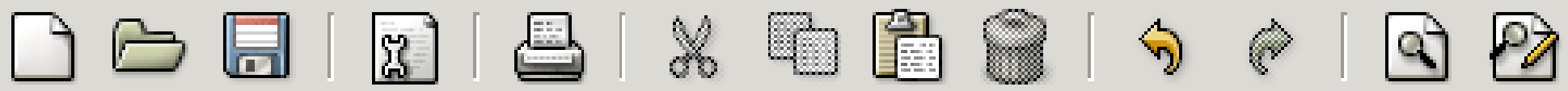
検索の履歴  
=UTF-8

そのままファイルに  
書き出す

UTF-8で開く



ファイル(F) 編集(E) 検索(S) オプション(O) ウィンドウ(W) ヘルプ(H)



tmaid.ini X

```

second=false
def_width=533
def_height=381
n_pos=2
ftnum=1
findindex=0
savepath=C:\\Documents and Settings\\iwm\\?f?X?N?g?b?v
history0=C:\\Documents and Settings\\iwm\\?f?X?N?g?b?v\\0.txt
history1=C:\\Documents and Settings\\iwm\\?f?X?N?g?b?v\\1.txt
history2=C:\\Documents and Settings\\iwm\\?f?X?N?g?b?v\\2.txt
history3=C:\\Documents and Settings\\iwm\\?f?X?N?g?b?v\\3.txt
find_arrow=true
find_ignorecase=false
find_num=3
find00=Linux Conference 2006
find01=GTK+
find02=岩本一樹
find03=

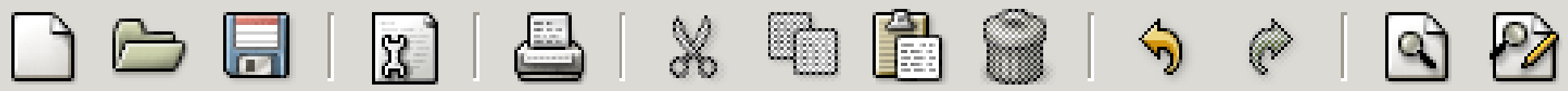
```

file name encodingの  
文字列が文字化け

file name encoding

で開く

ファイル(F) 編集(E) 検索(S) オプション(O) ウィンドウ(W) ヘルプ(H)



tmaid.ini X

```

second=false
def_width=533
def_height=381
n_pos=2
ftnum=1
findindex=0
savepath=C:\\Documents and Settings\\iwm\\デスクトップ
history0=C:\\Documents and Settings\\iwm\\デスクトップ\\0.txt
history1=C:\\Documents and Settings\\iwm\\デスクトップ\\1.txt
history2=C:\\Documents and Settings\\iwm\\デスクトップ\\2.txt
history3=C:\\Documents and Settings\\iwm\\デスクトップ\\3.txt
find_arrow=true
find_ignorecase=false
find_num=3
find00=Linux Conference 2006
find01=GTK+
find02=崎 譜 道 譲
find03=

```

UTF-8の文字列が  
文字化け

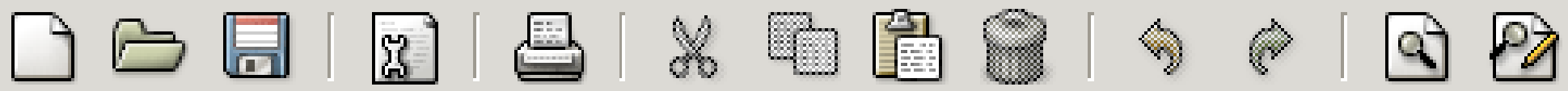
閱覽困難

編集困難

file name encoding  
をUTF-8に変換して  
ファイルに書き出す



ファイル(F) 編集(E) 検索(S) オプション(O) ウィンドウ(W) ヘルプ(H)



tmaid.ini X

```

second=false
def_width=533
def_height=381
n_pos=2
ftnum=1
findindex=0
savepath=C:\\Documents and Settings\\iwm\\デスクトップ
history0=C:\\Documents and Settings\\iwm\\デスクトップ\\0.txt
history1=C:\\Documents and Settings\\iwm\\デスクトップ\\1.txt
history2=C:\\Documents and Settings\\iwm\\デスクトップ\\2.txt
history3=C:\\Documents and Settings\\iwm\\デスクトップ\\3.txt
find_arrow=true
find_ignorecase=false
find_num=3
find00=Linux Conference 2006
find01=GTK+
find02=岩本一樹
find03=

```

人にやさしい、

しかし前述の変換  
に関する問題が...

g\_strescapeと  
g\_strcompressを  
使う

g\_strescapeは  
7FhからFFhを  
8進数表記に変換

08h \b

09h \t

0Ah \n

0Ch \f

0Dh \r

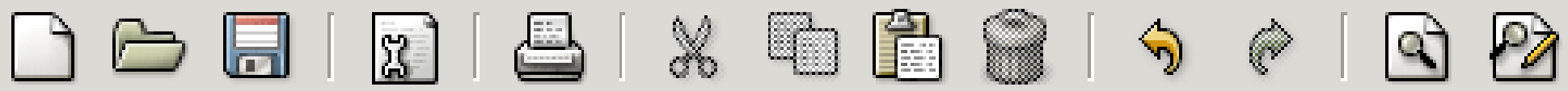
22h \"

5Ch \\

も変換

g\_strcompressは  
その反対の変換

ファイル(F) 編集(E) 検索(S) オプション(O) ウィンドウ(W) ヘルプ(H)



tmaid.ini X

```

second=false
def_width=533
def_height=381
n_pos=2
ftnum=1
findindex=0
savepath=C:\\Documents and Settings\\iwm\\\\"203\\146\\203\\130\\203\\116\\203\\14
history0=C:\\Documents and Settings\\iwm\\\\"203\\146\\203\\130\\203\\116\\203\\14
history1=C:\\Documents and Settings\\iwm\\\\"203\\146\\203\\130\\203\\116\\203\\14
history2=C:\\Documents and Settings\\iwm\\\\"203\\146\\203\\130\\203\\116\\203\\14
history3=C:\\Documents and Settings\\iwm\\\\"203\\146\\203\\130\\203\\116\\203\\14
find_arrow=true
find_ignorecase=false
find_num=3
find00=Linux Conference 2006
find01=GTK+
find02=岩本一樹
find03=

```



変換に関する問題  
は生じない、

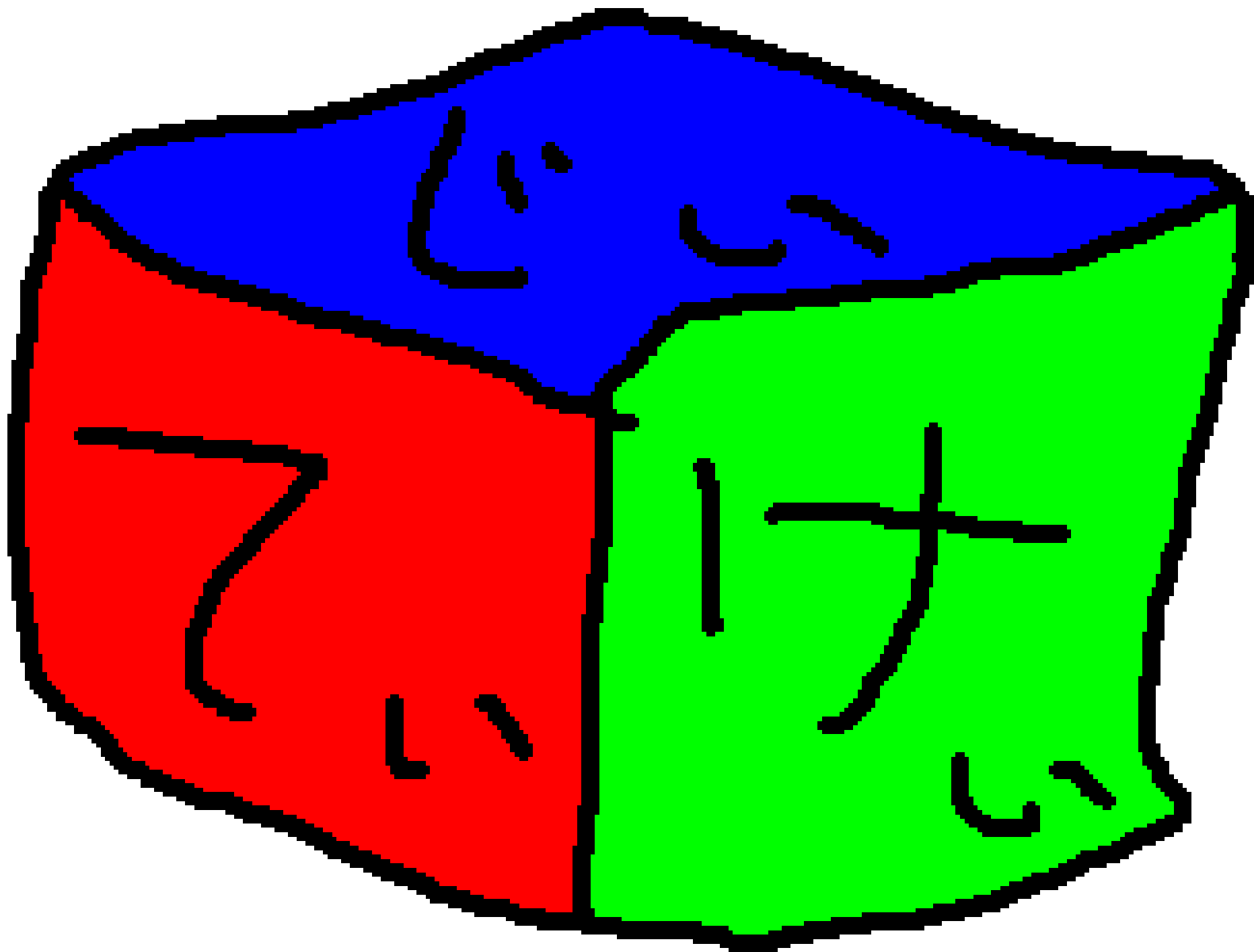
閲覧/編集は

やや困難

- 1.そのまま
- 2.UTF-8に変換
- 3.g\_strescape

どの方法が正しい、  
とは言えない

状況に応じて  
選択する必要あり



**Microsoft Windows**

文字列を扱うAPI



# ANSIコードページと UNICODEの2種類

ソースコードレベルでは  
CreateFile

実際には  
CreateFileA  
または  
CreateFileW

ヘッダで決まる

```
#ifndef UNICODE
#define CreateFile CreateFileW
#else
#define CreateFile CreateFileA
#endif
```

マクロUNICODEが定義されていれば  
CreateFileはCreateFileW

マクロUNICODEが定義されなければ  
CreateFileはCreateFileA

ANSIコードページは  
8ビット単位



1文字は1バイト  
または2バイト

実際には  
CP932など  
言語環境によって  
異なる

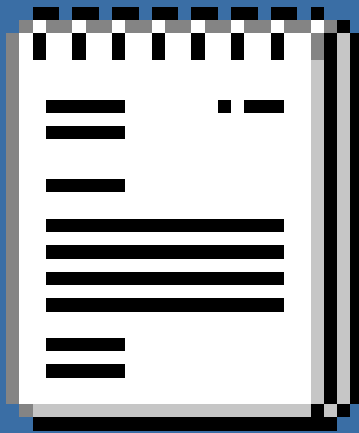
UNICODEは  
16ビット単位

1文字は2バイト

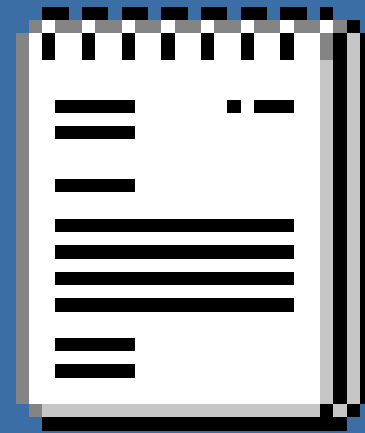
言語環境による  
違いはない

NT系では  
UNICODEが  
ネイティブ

ファイル名に  
ANSIコードページに  
ない文字も使える



A.txt



B.txt



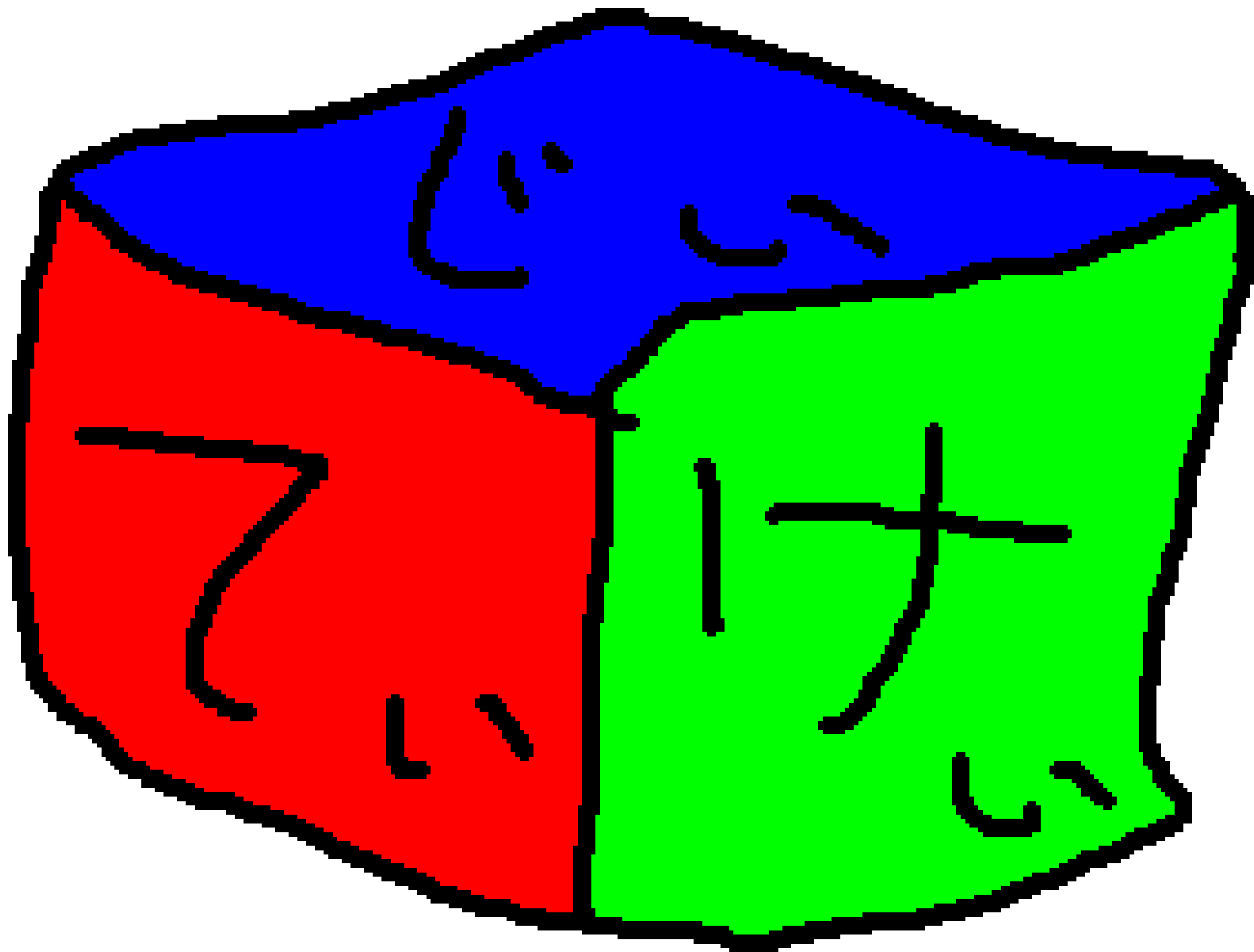
À.txt

가.txt

これらのファイルに  
アクセスできるのは  
~WのAPIのみ

～AのAPIでは  
ファイルを  
正しく扱えない

同様にopenやstatなどに対応する  
wopenやwstatがある



環境変数G\_FILENAME\_ENCODING  
環境変数G\_BROKEN\_FILENAMES

Microsoft Windowsでは両方とも未対応

GLib-2.4以前では



file name encoding  
はANSIコードページ  
に固定

ANSIコードページは  
open や stat, readdir  
などのAPIで使える

file name encodingは  
openやstat、readdir  
などのAPIで使える

この実装は  
UNIX系OSでの  
実装と矛盾しない

Microsoft Windows  
ではGLib-2.4まで

2.6 以降は煩雑

ANSIコードページ  
だとファイルを正し  
く扱うことができな  
い

UNICODE

であるべき



しかし

Microsoft Windowsの

16ビット単位の

UNICODE形式は

GTK+/GLibにそぐわない

だから

file name encoding

はUTF-8になった

GtkFileChooser ʘ  
g\_dir\_read\_name

可能なならば  
UNICODEの  
APIを呼ぶ

可能なならば  
=NT系OSならば

UNICODEから  
UTF-8に変換

不可能ならば  
ANSIコードページ  
のAPIを呼ぶ

不可能ならば  
=95/98/ME



ANSIコードページ  
からUTF-8に変換

UTF-8は  
openやstat、readdir  
などのAPIで使えない

file name encodingは  
openやstat、readdir  
などのAPIで使えない

GLib-2.6では  
新しいAPIを追加

g\_open や

g\_stat など

機能はopenや  
statなどと"同じ"

UNIX系OSでは  
単に名前が  
変わっただけ

UNIX系OS

では引数のファイル名は  
file name encoding



Microsoft Windows  
では引数のファイル名は  
UTF-8

Microsoft Windows  
では引数のファイル名は  
file name encoding

即ち、`g_open`や  
`g_stat`などは常に  
file name encoding

ソースコードに  
一貫性あり

# UNIX系OSと Microsoft Windowsで 共通のソースコード

2.4以下との  
互換性がなくなる

必要に応じて  
2.4以下のために  
g\_open や g\_stat  
などをマクロ定義

```
#if ! GLIB_CHECK_VERSION(2,6,0)
#define g_open open
#endif
```



g\_ ~を使わない  
= 正しく動作しない

Microsoft Windowsでは  
g\_～はw～を使う

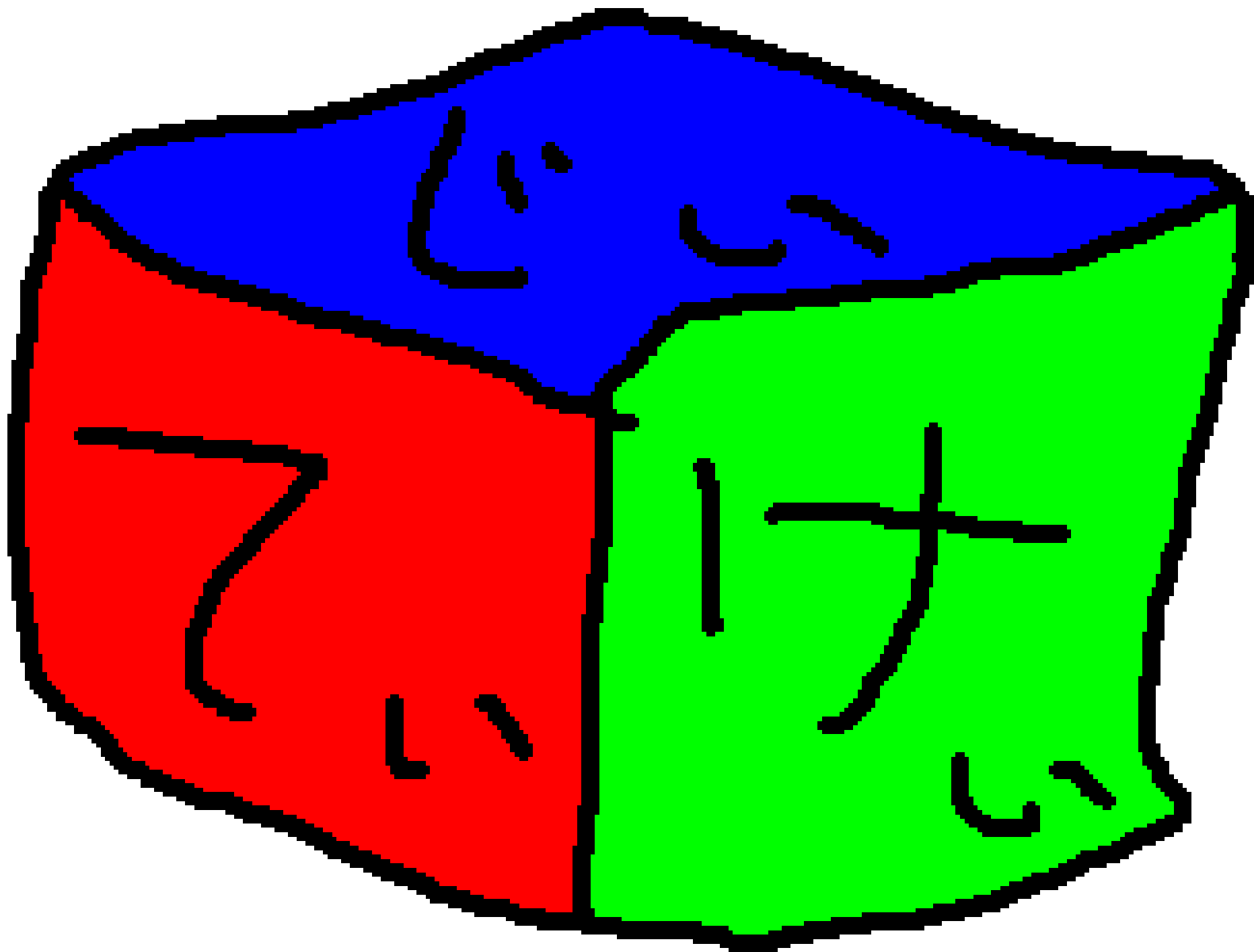
例えばg\_openは  
UTF-8をUNICODEに  
変換してwopenを  
呼び出す

ファイル名の  
劣化なし

A.txt や

カ.txt も

OK



GLib-2.6にあるg\_~なAPI

g\_open、g\_rename、  
g\_mkdir、g\_stat、g\_lstat、  
g\_unlink、g\_remove、  
g\_rmdir、g\_fopen、  
g\_freopen



GLib-2.8で追加された  
g\_~なAPI

g\_chmod、g\_access、  
g\_creat、g\_chdir

ここにないAPIを  
使う時には？

2.6で

chmod、access、

creat、chdirを

使うには？

file name encoding  
をANSIコードページ  
に変換

UTF-8  
をANSIコードページ  
に変換

Microsoft Windowsでは  
ローケールの文字符号化方式  
がANSIコードページ

**g\_locale\_from\_utf8**



通常

file name encoding≠UTF-8

ロケールの文字符号化方式  
=ANSIコードページ  
はmicrosoft Windowsのみ

file name encodingを  
g\_locale\_to\_utf8で  
変換してファイル名として  
使う

# Microsoft Windowsの 特別な処理

GLib-2.8以降

g\_win32\_locale\_filename\_from\_utf8

新設

UTF-8



ロケールの文字符号化方式

専用API

file name encoding



ANSIコードページ

専用API



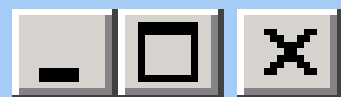
g\_locale\_from\_utf8  
変換を試みるだけ

変換は  
失敗するかも

例えばCP932で  
À.txtや가.txtは  
変換できない

g\_win32\_locale\_filename\_from\_utf8  
は失敗したらGetShortPathNameW

test



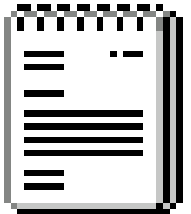
ファイル(F) 編集(E) 表示(V) お気に入りに(A) >>



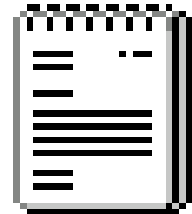
← 戻る ▶ ▶ 検索 フォルダ >>

アドレス(D) C:\test

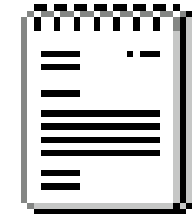
移動



A.txt

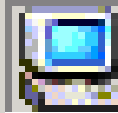


long file  
name.txt



フ.txt

3 個のオブジェクト 0 バイト



マイコンピュータ

```
C:¥test>dir /x  
ドライブ C のボリューム ラベルがありません。  
ボリューム シリアル番号は          です
```

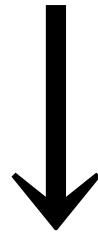
C:¥test のディレクトリ

```
2006/05/23  17:38          <DIR>          .  
2006/05/23  17:38          <DIR>          ..  
2006/05/23  17:38          0 LONGFI~1.TXT      long file name.txt  
2006/05/23  17:29          0                À.txt  
2006/05/23  17:29          0 74E2~1.TXT        ■.txt
```

```
          3 個のファイル          0 バイト  
          2 個のディレクトリ      バイトの空き領域
```

```
C:¥test>■
```

가.txt



74E2~1.TXT

74E2~1.TXT

ならばANSIコード  
ページに変換可



À.txt

短いファイル名に  
変換できていない

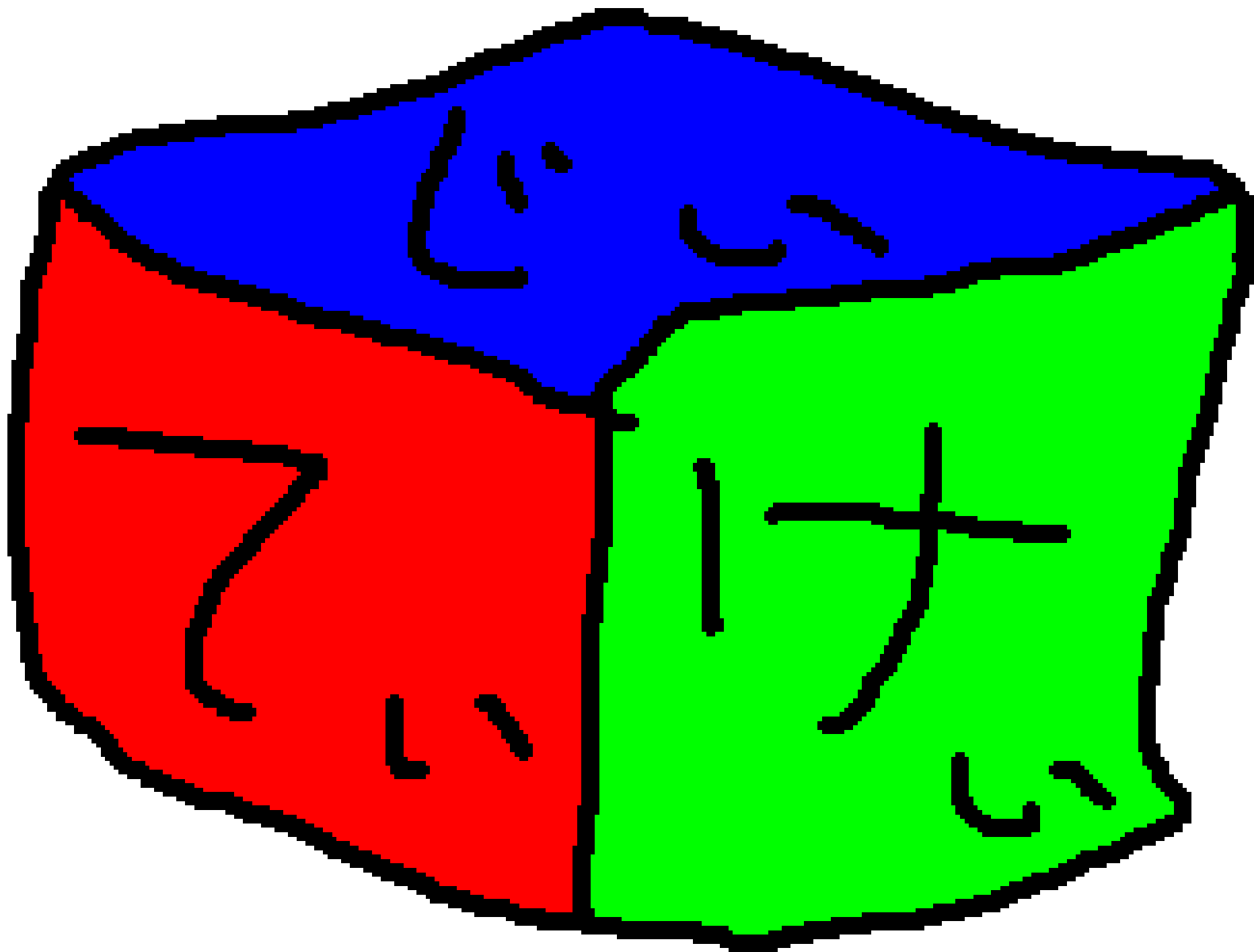
変換に成功する  
可能性は高まる

でも失敗する  
可能性もある

Microsoft Windowsならば  
g\_locale\_from\_utf8や  
g\_win32\_locale\_filename\_from\_utf8  
で変換するよりも  
g\_utf8\_to\_utf16

UNICODEに変換  
してUNICODEの  
APIを呼ぶべき

CreateFileWとか  
wopenなど



パスの区切り



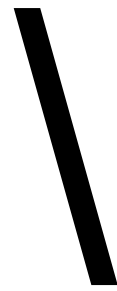
UNIX系OS

/

スラッシュ

(2Fh)

# Microsoft Windows



バックスラッシュ

(5Ch)

マクロ

G\_DIR\_SEPARATOR

G\_DIR\_SEPARATOR\_S

G\_DIR\_SEPARATOR  
は文字

**G\_DIR\_SEPARATOR\_S**  
は文字列

```
#define G_DIR_SEPARATOR '/'  
#define G_DIR_SEPARATOR_S "/"
```

GLib-2.6以降

マクロ

G\_IS\_DIR\_SEPARATOR (c)

文字が<sup>レ</sup>パスの  
区切りならば<sup>レ</sup>真



Microsoft Windows  
では特別な実装

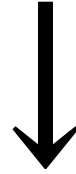
「/」と「\」  
の両方で「真

# GLibのパスを扱うAPI

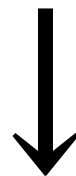
`g_path_get_basename`

`g_path_get_dirname`

`/home/iwm/test.txt`



`g_path_get_basename`



`test.txt`

`/home/iwm/test.txt`



`g_path_get_dirname`



`/home/iwm`

Microsoft Windows

GLib-2.2.3以降

`g_path_get_basename`

`g_path_get_dirname`

「/」と「\」の両方を区切り

マクロ

G\_IS\_DIR\_SEPARATOR (c)

の導入よりも前



複数のパスを区切る

# UNIX系OS

：

コロン

(3Ah)

# Microsoft Windows

■

;

セミコロソ

(3Bh)

マクロ

G\_SEARCHPATH\_SEPARATOR

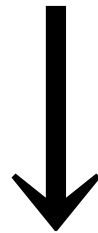
G\_SEARCHPATH\_SEPARATOR\_S

G\_SEARCHPATH\_SEPARATOR  
は文字

G\_SEARCHPATH\_SEPARATOR\_S  
は文字列

```
#define G_SEARCHPATH_SEPARATOR ':'  
#define G_SEARCHPATH_SEPARATOR_S ":",
```

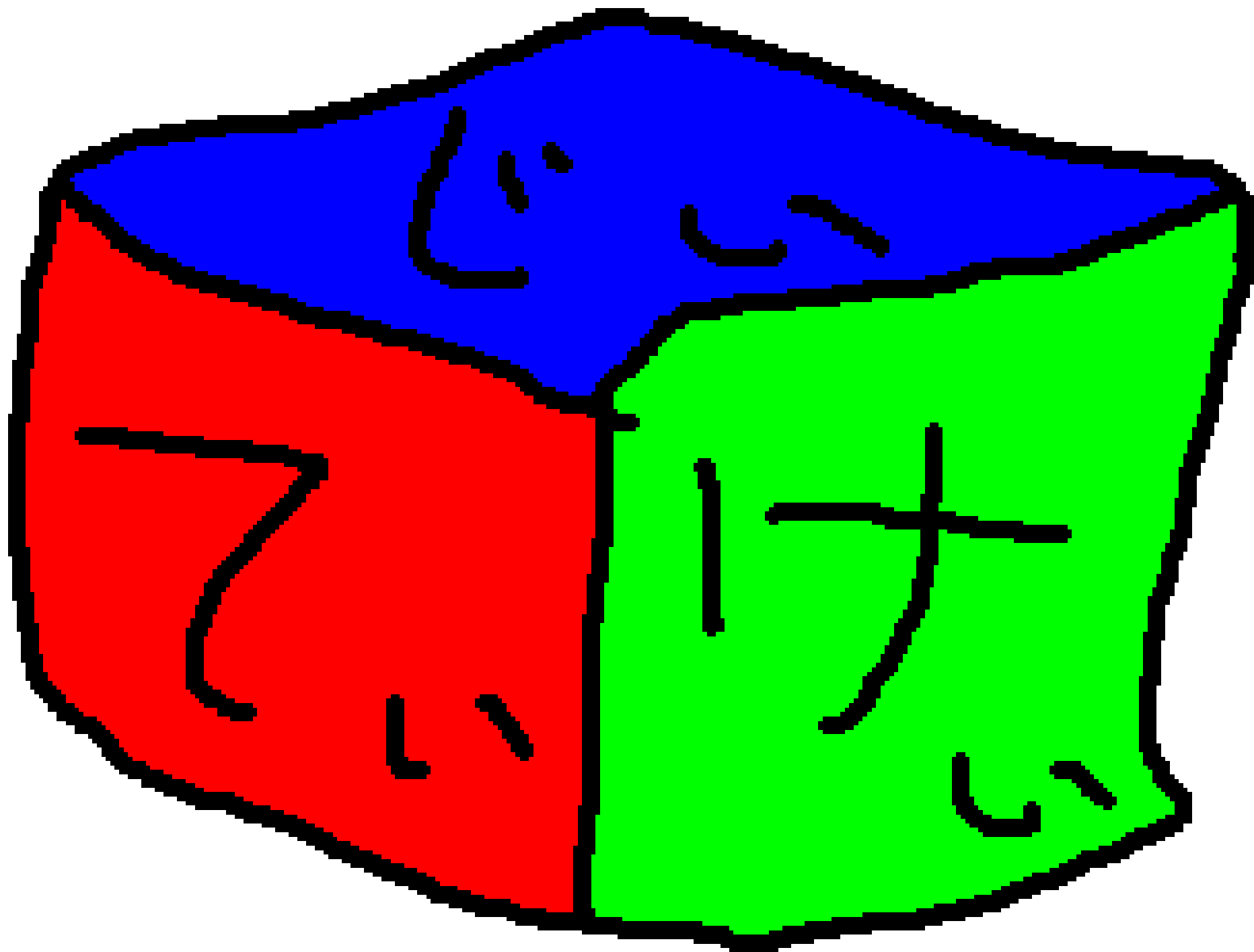
マクロを使わない



ハードコード



移植性に問題が...



# 5Ch 問題題

5Ch=ノパスの区切り

5Ch=2バイト目

単純に5Chを検索

**strchr、strcspn、  
strpbrk、strrchr、  
strspn、strstr、  
strtok**

2バイトの文字が  
分断される可能性





CP932

95h 5Ch

C:\doc\表1.txt

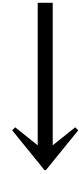
C	:	\	d	o	c	\	表		l	.	t	x	t
43h	3Ah	5Ch	64h	6Fh	63h	5Ch	95h	5Ch	31h	2Eh	74h	78h	74h

「表」という文字の  
途中で分断

C:\doc\表1.txt

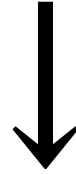


ファイル名

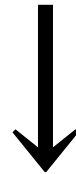


1.txt

C:\doc\表1.txt



ディレクトリ



C:\doc\?

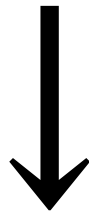
先頭から見て  
2バイト文字の  
先頭かどうかが  
判別しながら探す



GLibの実装は？

GLib-2.6以降

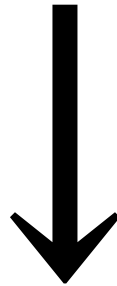
file name encoding



UTF-8

UTF-8は  
2バイト目以降に  
5Chはない

UTF-8



安全

GLib-2.6 以降



安全

GLib-2.6以降

file name encoding



ANSIコードページ

ANSIコードページは  
2バイト目以降に5Ch  
があるかも

GLib-2.0.0~GLib-2.4.8

すべての実装で  
単純に5Chで分割

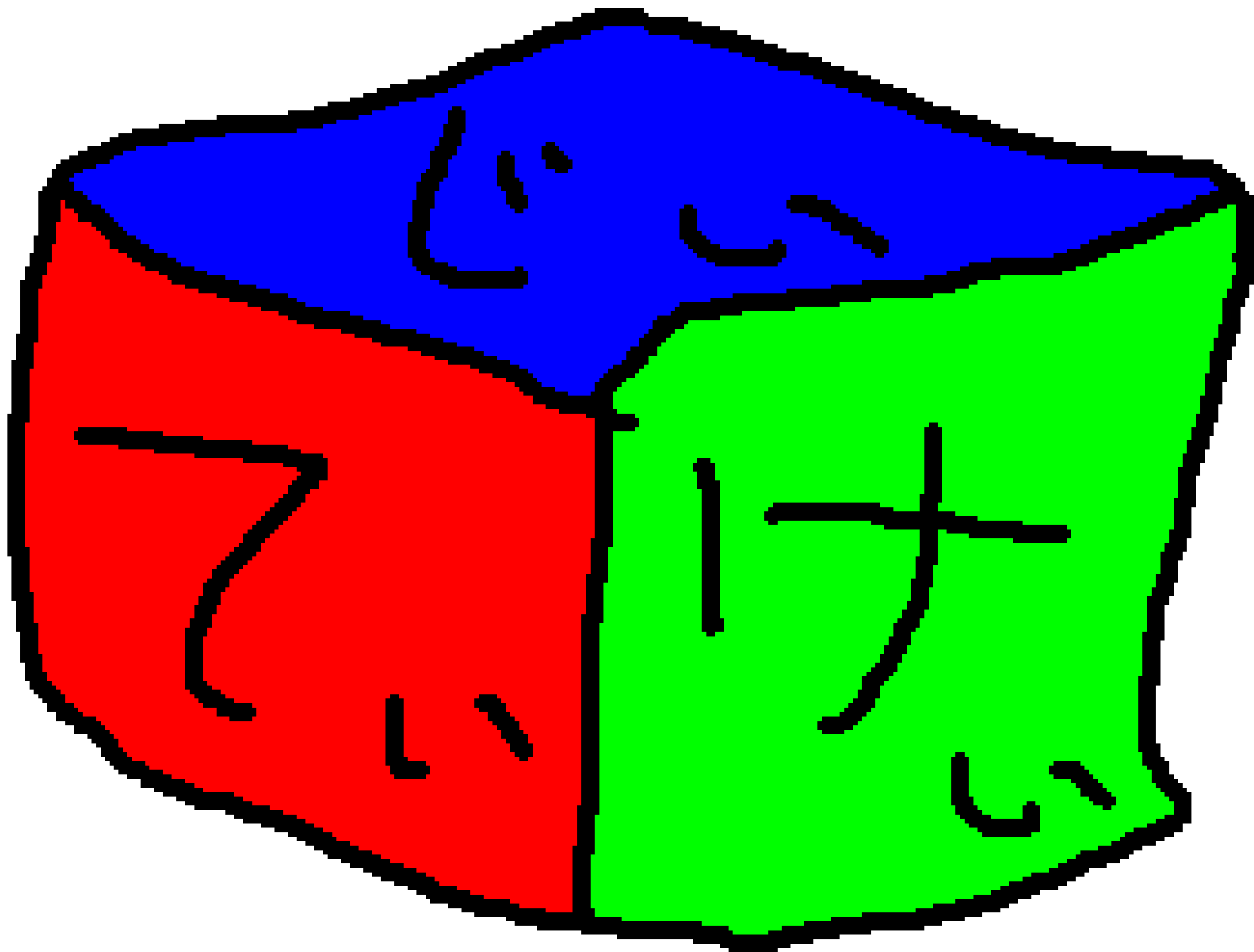


GLib-2.4以前



危険

Microsoft Windowsでは  
GLib-2.4以前の  
g\_path\_get\_basename  
g\_path\_get\_dirname  
は使えない



実際のアプリケーションでは？

**UIImageView**

画像閲覧ソフト

```
ファイル(E) 編集(E) 表示(V) 端末(T) 移動(G) ヘルプ(H)
** (gimv:1920): WARNING **: Invalid UTF8 string passed to pango_layout_set_text(
)
** (gimv:1920): WARNING **: Invalid UTF8 string passed to pango_layout_set_text(
)
```

GImageView -Thumbnail Window-

ファイル(E) 編集(E) 表示(V) タブ(T) アクション(A) ツール(L) ヘルプ(H)

192 アルバム -/-

/home/iwm/test/

- abc
- xyz

test

ファイル(E) 編集(E) 表示(V) ジャンプ(G) ブックマーク(B) ヘルプ(H)

戻る 進む 上へ 停止 再読み込み ホーム

場所: /home/iwm/test 75% アイコン表示

情報 x

test

フォルダ, 3 個のアイテム  
今日の 午前 9:38

- abc
- xyz
- 岩本一樹

```
ring passed to pango_layout_set_text(
ring passed to pango_layout_set_text(

```

```
** (gimv:1920): WARNING **: Invalid UTF8 string passed to pango_layout_set_text(
)
```

```
ファイル(E) 編集(E) 表示(V) 端末(T) 移動(G) ヘルプ(H)
** (gimv:1920): WARNING **: Inval
)
** (gimv:1920): WARNING **: Inval
)
```

GImageView -Thumbnail Window-

ファイル(E) 編集(E) 表示(V) タブ(T) アクション(A) ツール(L) ヘルプ(H)

192 アルバム -/-

/home/iwm/test/

- abc
- xyz
- 

test

ファイル(E) 編集(E) 表示(V) ジャンプ(G) ブックマーク(B) ヘルプ(H)

戻る 進む 上へ 停止 再読み込み ホーム

場所: /home/iwm/test 75% アイコン表示

情報 x

test

フォルダ, 3 個のアイテム  
今日の 午前 9:38

- abc
- xyz
- 岩本一樹

```
** (gimv:1920): WARNING **: Invalid UTF8 string passed to pango_layout_set_text(
)
```



まったく変換を行っていない

**gFTP**

FTPクライアント

FTP(F) ローカル(L) リモート(R) ブックマーク(B) 転送(T) ログ(O) ツール(S) ヘルプ(H)

ホスト:  ポート番号:  ユーザ:  パスワード:  FTP

/home/iwm/test/岩本一樹

[Local] [全てのファイル]

ファイル名	サイズ	ユーザ	グループ	日付
..	4,096	iwm	iwm	Sat May 6 09:

接続なし\*

ファイル名	サイズ	ユーザ	グループ	日付
-------	-----	-----	------	----

ファイル名	経過
-------	----

ローカル・フォルダを /home/iwm/test/abc へ変更しました  
ローカル・フォルダを /home/iwm/test/abc/.. へ変更しました

```
(gftp-gtk:1926): Gtk-CRITICAL **: file gtktextbuffer.c: line 557 (gtk_text_buffer_emit_insert): assertion `g_utf8_validate (text, len, NULL)' failed
```

FTP(F) ローカル(L) リモート(R) ブックマーク(B) 転送(T) ログ(O) ツール(S) ヘルプ(H)

Host:  Port:  User:  Password:  FTP

/home/iwm/test/岩本一樹

[Local] [全てのファイル]

ファイル名	サイズ	ユーザ	グループ	日付
..	4,096	iwm	iwm	Sat May 6 09:

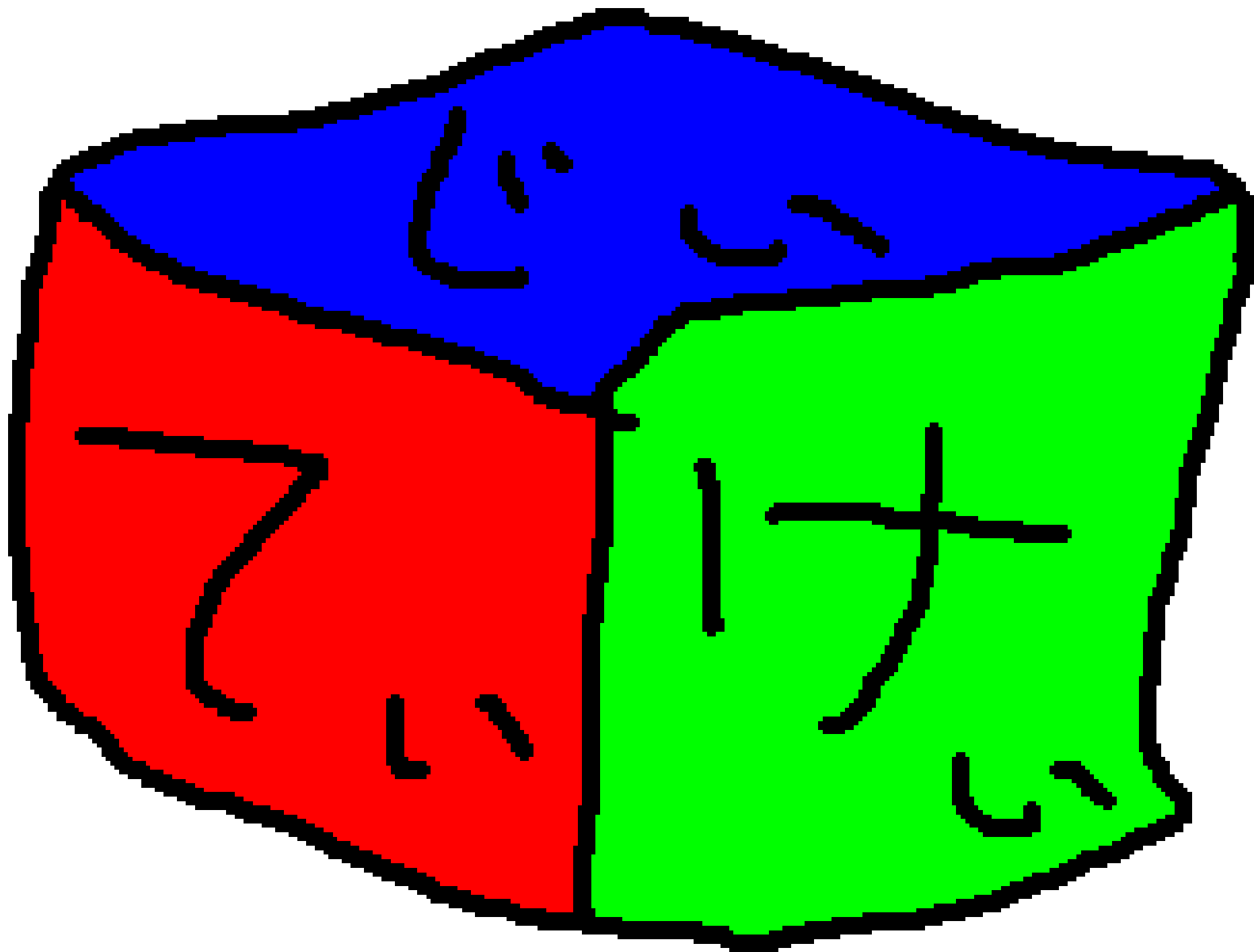
接続なし\*

ファイル名	サイズ	ユーザ	グループ	日付
-------	-----	-----	------	----

ファイル名	経過
ローカル・フォルダを /home/iwm/test/abc/.. へ変更しました	
ローカル・フォルダを /home/iwm/test/abc/.. へ変更しました	

```
(gftp-gtk:1926): Gtk-CRITICAL **: file gtktextbuffer.c: line 557 (gtk_text_buffer_emit_insert): assertion `g_utf8_validate (text, len, NULL)' failed
```

変換を忘れている？



結局

file name encoding

とは...



file name encoding  
はネイティブなAPIの  
ファイル名としては  
使えない

file name encoding  
はGTK+のウィジェット  
トで表示できない

file name encoding  
は文字列としての体  
裁を整えてはいるが  
単なるデータでしか  
ない

中途半端に  
文字列だから  
混乱を生じる

誤った使い方をし  
てもコンパイル時  
に警告は出ない

ASCIIな環境だと  
問題が<sup>レ</sup>発覚しにくい

プログラマ側が  
きっちり管理する  
必要がある

プログラマの負担  
が大きい



変換し忘れることも...

隱心

世

例えば、構造体  
GFileName

メンバはgchar型の  
配列かもしれない、

```
struct _GFileName {  
    gchar *file;  
};  
typedef struct _GFileName GFileName;
```

Microsoft Windows  
ならばメンバは  
gunichar2型の配列  
かもしれない

```
struct _GFileName {  
    gunichar2 *file;  
};  
typedef struct _GFileName GFileName;
```

メンバは16ビットの  
数値かもしれない



```
struct _GFileName {  
    guint16 id;  
};  
typedef struct _GFileName GFileName;
```

`gtk_file_chooser_get_filename`



`GFileName`

gtk\_file\_chooser\_set\_filename



GFileName

`g_open`、`g_fopen`、`g_dir_open`...



`GFileName`

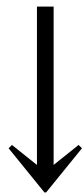
```
GFileName *g_filename_get_basename (GFileName *fn)
GFileName *g_filename_get_dirname (GFileName *fn)
gchar *g_filename_get_display_name (GFileName *fn)
GFileName *g_filename_copy (GFileName *fn)
void g_filename_free (GFileName *fn)
gboolean g_filename_compare (GFileName *fn1, GFileName *fn2)
gchar *g_filename_get_native_name (GFileName *fn)
gboolean g_filename_set_native_name (GFileName *fn, const gchar *file)
gunichar2 *g_filename_get_win32_name (GFileName *fn)
gboolean g_filename_set_win32_name (GFileName *fn, const gunichar2 *file)
```

GFileName構造体を  
ネイティブなAPIに使う



エラー

GFileName構造体を  
GTK+のウィジェットで  
表示



エラー

コンパイル時に  
ミスが発覚する



プログラマの  
負担が軽くなる

実は既に近いものがある

- ホーム
- デスクトップ
- ファイルシステム

ホーム test

名前	最終変更日
abc	2006年05月06日
xyz	2006年05月06日
岩本一樹	2006年05月06日

+ 追加(A)

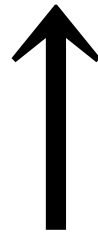
削除(R)

All Files

キャンセル(C)

開く(O)

GtkFileChooser



gtkfilesystem.[ch]

gtkfilesystemunix.[ch]

や

gtkfilesystemwin32.[ch]

がある

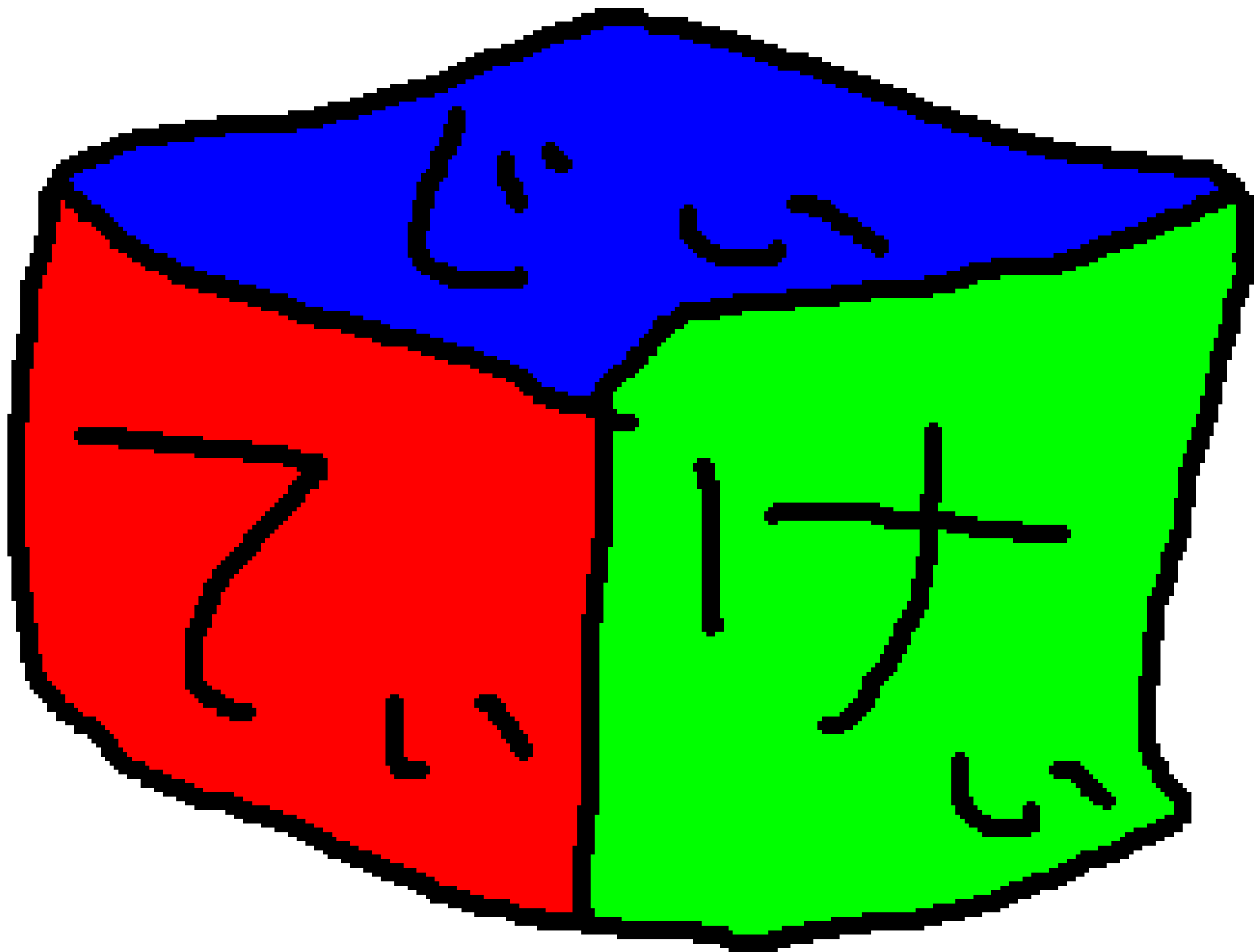
GtkFilePathという  
構造体を定義している

GtkFilePathを使う  
APIもある

しかしこれは  
GtkFileChooser  
向け



手直ししてGLib側  
に移したら...



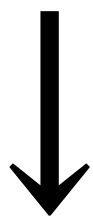
UNIX系OSが一般に普及



ファイル名に非ASCII文字を使う

GTK+はマルチプラットフォーム

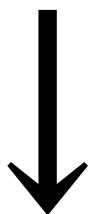
file name encoding  
への対応が不十分



UNIX系OSでしか  
動作しない

がっかいり

日本語が母国語



問題を理解しやすい

